

## 正しいのはあなたです

(エレミヤ書12・1〜3新共同訳)

## 一、主と会話をしよう

神を信じている人は、神と会話をします。聖書のことばが思い起こされるようにして、父・子・聖霊なる神と会話をしようになります。「聖書のあの箇所はどついう意味なのだろうか」「なぜ歴史において嘘がまかり通るのだろうか」「神が究極的な支配者であるなら、なぜあのように理不尽なことを放っておかれるのか」等々、次々に思い浮かんでくる疑問と、それに対する回答を自分なりに考え続けます。

## 二、エレミヤの葛藤

エレミヤ書12章1節を見てまいります。今回は新共同訳です。正しいのは、主よ、あなたです。(略)とあります。これは、エレミヤが主に訴えた祈りのことばです。6節まで続きます。前後関係を見ますと、エレミヤの訴えは、11章18節から始まっています。とは言うものの、11章の終わりである23節と12章1節は内容的につながっていないので、12章1節からは独立したことばとして受け止めるのが良いようです。

今一度、1節の1行目をご覧ください。正しいのは、主よ、あなたです。く

とあります。原文も、このことばから始まっています。このことばに、それまでにエレミヤが持ち続けて来た葛藤を見ような気がします。エレミヤは、一つのことばを選びました。正しいのは、主よ、あなたです。く。ということばです。ですが、そう語ったものの、すべてがすっきりしたわけではありません。2行目を以降をご覧ください。く。それでも、わたしはあなたと争い、裁きについて論じたい。なぜ、神に逆らう者の道は栄え欺く者は皆、安穩に過しているのですか。く。と訴えています。エレミヤは、物事をよく観察する人であったと思われま。主は唯一なる神であつて、この方以外に神はおられない。主はすべてを治めておられる。しかし現実には、こんなではありませんか」という疑問であり、訴えを投げかけています。

エレミヤがこのような疑問を持つようになったのは、いつ頃からなのでしょう。残念ながらエレミヤ書には、日付が記されていないため、分かりませんが、エレミヤが預言者として立ち上がった初期ではなく、しばらくしてからであったと思われる。ちなみに、エレミヤの活動期間は42年間でした(1・2・3より)。エレミヤが預言者として活動した時代は、たいへんな時代でした。大雑把に捉えて、ソロモン王が建築した第一神殿の時代、エルサレムの神殿では主への礼拝が献げられ

ていたものの、極めて表面的なものになっていったようです。偶像礼拝の禁止も徹底されていませんでした。そこでエレミヤは主(ヤハウエ)に問うています。12章1節の4行目、5行目です。く。なぜ、神に逆らう者の道は栄え欺く者は皆、安穩に過しているのですか。く。神に逆らう者、欺く者は、異教徒ではなく、同胞であり、主を信じる共同体の一員です。2節前半のことばから分かります。く。あなたが彼らを植えられたので、彼らは根を張り、育つて実を結んでいます。く。とあるからです。これが、エレミヤが見た、同胞イスラエルの問題点でした。すなわち、一見したところ、祝福され、豊かになっているのです。そういう彼らの姿を語っています。2節後半です。く。口先ではあなたに近く、腹ではあなたから遠いのです。く。

神の人エレミヤが悩んでいた理由は、同胞が主から離れている状態、すなわち罪の状態にあったからです。

## 三、問題が解決されるために

罪の問題に立ち向かい、これを解決するためにはどうしたらよいのでしょうか。3節が答えでしょう。く。3節が答えでしょうか。残念ながら、アーメンとは言えないです。どうやら、今回切り取った範囲には、答えがなさそうです。私には、旧約では、詩篇73篇が思い起こされました。く。まことに神はいつくしみ深い。イスラエルに

心の清らかな人たちに。けれどもこの私は、足がつかまらず、私の歩みは滑りかけた。それは、私が悪しき者が栄えるのを見て、誇り高ぶる者をねたんだからだ。実に、彼らの死には苦痛がなく、彼らのからだは肥えている。く。です。そして73篇17節です。く。いに私は、神の聖所に入って、彼らの最期を悟った。く。とあります。すなわち、主は私たちが願うように、あるいは私たちが考えるように働かれませんが、神には時があり、御手を動かされるのです。く。ついに私は、神の聖所に入って彼らの最期を悟った。く。からは、義なる神が悪しき者、誇り高ぶる者をさばかれたという余韻が残ります。それはそれでかまわないと思います。神のさばきは正しいからです。

ですが、ここに新約の光を当てますと、恵み深い神が見えてまいります。主イエスが十字架上で祈られたことばです。く。父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです(ルカ23・34)という祈りです。

神がどのようなお方であるのか。それは、聖書を通して知ることができません。ですが、聖書といえども、中心を弁えないと分かりません。神のことばの中心は主イエス・キリストです。主イエス・キリストを見上げる時に、神が見えてくるのです。